

# 平成二十九年九月の收穫（坤）

土屋 博

十三「明治天皇 聖德餘韻」杉浦重剛謹選、大町桂月謹補

（世界文庫刊行會、大正十四年刊、定價金五十錢、一〇四頁）

古書價格二百圓也。杉浦重剛は三十二首を擇ぶも逝去し、其の後大町桂月、その作業を引き継げり。

十四「大正一萬歌集」尾山篤二郎編著

（岡村書店、大正十五年十六版、定價金壹圓五拾錢、四三〇頁）

古書價格五百圓也。初版は大正三年。

齋藤茂吉序に曰く、「明治三十八年頃神田の貸本所より竹の里歌を借りて來て讀んだ。己をして歌を作らせる機縁となつた竹の里歌に何時も感謝してゐると共に、己の先蹤己の周圍の優越者を知り得た事について己の心は何時も多幸である」と。

目次は、春夏秋冬、歲暮新年、海の歌、羈旅の歌、戀、酒の歌、挽歌、雜詠より成る。冒頭は窪田空穂の「を暗きに我と手にぎる見よ空の青を照らして春は來れり」。

十五「日本政記讀本 全」安藤圓秀編

（東京開成館、昭和四年再版、定價金參拾八錢、一六二頁）

古書價格三百圓也。我が朝廷の政治史にして、神武天皇に筆を起し、後陽成天皇に終る。山陽最後の一瞬まで生命を刻み込みたる書にして、尊王愛國の熱情に燃えたる彼の魂、隨所に躍動す。神武の創業より其の上一等までの四十篇を收む。

十六「賴山陽先生」吉村保著

（京都府教育會、昭和六年刊、八〇頁）

古書價格二百圓也。著者は京都府教育會主事。賴山陽の百年忌に際し、先生の三十二歳より五十三歳の終焉の時まで過ごしたる京都は緣故深き土地柄なる由。附録に山陽の名文集を附す。

十七「懸賞募集 日本新名勝俳句」高浜虛子選

（大阪毎日・東京日日新聞社、昭和六年刊、定價金壹圓、本文四三六頁）

古書價格五百圓也。函入、和綴横長。題字（蓬萊島）は本山彦一社長、序文は徳富猪一郎氏。新聞社の選定したる日本新名勝百三十三景につき、應募句数は實に十万三千句に及ぶ。本書には嚴選せられたる一萬句掲載せらる。

曳く

十八「十八史略新解」簡野道明先生閱、國語漢文研究會編

（明治書院、昭和十一年十二版、定價金壹圓七拾錢、四二八頁）

古書價格五百圓也。初版は昭和八年。例言より、「十八史略は）我邦では足利時代に渡來してから徳川時代に入つて天和元祿の頃に至り郷塾課蒙の本として盛行し、特に明治の御代に及んでは弘く全國小學校の教科書として採用せらる」と。

十九「趣味と修養」

（日本經濟俱樂部、昭和十二年刊、定價金三圓五十錢、一五〇二頁）

古書價格五百圓也。函入。例言によれば、「日本文學の傑作及び偉人の教訓傳記等にして我が國民性を發揮せるものを選びたり」と。平家物語よりは、「妓王と佛」、「敦盛の最期」、千手と重衡」、「小督の

局」。また、「孝女白菊の歌」につきては、井上巽軒（哲次郎）の原詩と落合直文の新詩の雙方を含む。頼山陽の耶馬溪圖卷の記も掲載せらる。

二十「最も徹底せる 日本外史精解」文學士青木亮義著  
（東江堂、昭和十三年四版、定價金壹圓二拾錢、三四五頁）

古書價格二百圓也。初版は昭和十二年。解題に曰く、「其の文章は雅健であつて、我が國古今の學者の企及する所でない」と稱せられ、漢文を日本的に醇化せしめたものは山陽であらうと稱せられるのもこのためである」と。

二十一「教科書中心 小學國史教授の真髓」宮崎茂一著  
（西會、昭和十三年刊、非賣品、四一三頁）

古書價格五百圓也。卷末の「板書機構の實際」は、授業中に教師の黑板に書くチャート三百枚以上を収録す。

二十二「日本外史新解」簡野道明先生閱、國語漢文研究會編

（明治書院、昭和十七年十九版、定價金貳圓、五八〇頁）

古書價格五百圓也。初版は昭和九年。例言より、「日本外史二十二卷は頼山陽が大権の武門に移り皇室の式微を歎いて刻苦勵精二十餘年の心血を注いで成つた大著で源平二氏から筆を起し徳川氏に至るまでの治亂興廢を詳にし皇室を尊び忠奸を辨じ國體の精華を發揮したのは勿論文章も亦雅健で精彩があるから讀者をして知らず識らず尊王賤霸の大義を明かにし忠君愛國の志気を鼓舞振作せしむるに足るものがある」と。

二十三「幕末愛國歌」川田順著

（第一書房、昭和十八年三刷、定價二圓、特別行爲稅相當額十錢、四四二頁）

古書價格八四〇圓也。初版は昭和十七年。序に曰く、「吉野朝の悲歌と幕末の志士吟とは、過去に於ける愛國歌の二大集團と愚考する」と。

二十四「愛國百人一首早わかり」日本文學報國會認定校閱

（建軍精神普及會、昭和十八年改訂版、定價金壹圓、百頁）

古書價格四百圓也。初版は昭和十七年。陸軍大將荒木貞夫、海軍中將安東昌喬題字。

二十五「定本愛國百人一首解説」日本文學報國會編

（毎日新聞社、昭和十八年刊、定價一圓二十錢、二二四頁）

古書價格五百圓也。定本といふは、昭和十七年十一月二十日を以て毎日新聞紙上に發表せられたる後、正誤手續きを濟ませたる故なり。

二十六「頼山陽詩集 全二卷」伊藤靄谿註釋

（書藝界、昭和六十年刊、セット定價一万六千円、四二二三三八九頁）

古書價格四千圓也。新橋驛前古本市にて購入、函入。

（平成二十九年十月二十三日受附）